

古市工學博士の薨去を悼む

相談役 工學博士 中 川 吉 造
(内務技監)

去る一月二十八日樞密顧問官從二位勳一等工學博士男爵古市公成氏が薨去せられた事は國家的の大きな損失であるに、獨り土木工學のみ言はずわが工學界全般に亘つて博士を失つた事は何物にも代へ難い一大損失であつて、誠に痛惜哀悼の念に耐へない。

博士は新姫路藩士古市孝氏の長男として安政元年申寅閏七月江戸蠣殼町に誕生せられたのであるが、本年八十一歳の高齡を以て薨去せられる迄のその輝かしく經歷も幾多國家の爲めに致された勳功は、單にわが工學界の師父と仰がれるに止まらず、實にわが國の貴い偉人の一人であつたと言はなければならぬ。

博士は明治二年一月佛蘭西學修業のために開成所に入學、大學南校及び開成學校を経て八年七月文部省から佛國留學を命ぜられ、巴黎エコール・セントラル及び巴里理科大學に學んで共に學位を受け、十三年十月歸朝するや土木局雁を中付けられたのが博士がわが國の土木行政に貢獻せられる第一歩である。次に少しく博士の輝やかしい經歷を辿つて見よう。

明治十四年六月、内務省御用掛被仰付。同年十月、東京大學理學部勤務被仰付。同十七年七月、任内務三等技師。同十九年五月、任工科大學教授兼工科大學長。同二十一年五月工學博士の學位を授く。同年十一月、内務大臣山縣有朋歐洲諸國巡回に付隨行を命ず。同二十三年六月任内務省土木局長、兼工科大學教授、兼工科大學長、同年九月、貴族院議員に任ず。同二十五年七月、震災豫防調査會委員被仰付。同二十六年六月、土木會議委員被仰付。同二十七年六月、任内務省土木技監。同三十一年十一月、任遞信次官。同年十二月、鐵道會議委員被仰付。同三十二年二月、工學博士會々

長に當選。同年六月、鐵道會議々長被仰付、三十三年五月、任遞信總務長官兼遞信省官房長。同年六月、港灣調查會委員被仰付。同三十四年十月、高等教育會議々員被仰付。同三十六年三月、東京帝國大學名譽教授の名稱を授く。同年三月任鐵道作業局長官。同年三月同年十二月、京釜鐵道株式會社總裁被仰付。同鐵道速成の功に依り同三十九年四月、叙勳一等授瑞寶章。同年六月、任統監府鐵道管理局長官。同年九月、帝國學士院會員被仰付。同四十三年十月、叙治水調査會委員被仰付。同四十四年九月、港灣調査會委員被仰付。大正七年四月、臨時教育會議委員被仰付。同年八月、道路會議議員被仰付。同年十二月、依勳功特授男爵。同九年十一月、學術研究會議議員被仰付。同十三年一月、任樞密顧問官同十五年十一月、佛國レジョン・ド・ヌウル二等勳章及白耳義レオポルド二世一等勳章佩用免許。昭和四年一月授旭日大綬章。同年七月、米國土木學會名譽會員に推薦。同五年二月、英國土木學會名譽會員に推薦。同六年二月、宗秩寮雜議官被仰付。同七年十二月、叙從二位。八年一月、老年に付特旨を以て宮中杖被差許。同九年一月、授旭日桐花大綬章。

博士は工科大学第一回の學長として我邦高等工學教育の基礎を作り又工學院の創立に力を盡し永く管理長を勤め我邦普通工學の普及、技術者の養成に貢獻せられ、又現に日本工學會の理事長であつて昭和四年萬國工業會議及世界動力會議を我邦に開催せらるゝに當り其會長として非常に盡力せられました。

簡潔に列擧して見るに博士が眞にわが邦の國費的存在であつた事が今更の様に痛感せられる。わが工學界の先達であり師父であつた博士なればこそ土木局長、土木技監、工科大学長、逓信次官と言ふ様な、現代では想像も出来ない様な方面の違つた官職に歴任せられて、而も夫々偉大なる業績を残されたのである。之を思へば博士が生前の勳功に對しては無限の敬慕が拂はれると同時に、その薨去に對して深甚なる哀悼を感ずるのである。

博士は玲瓏玉の如き人格と醇厚海の如き寛容とを兼備せられ、之に接する毎に宛も師父に見えるが如き親しみを感ぜしめたものであるが、それらも一府博士の思出を深からしめる。最後に謹んで博士が在天の靈に對して哀悼の微衷を捧げる。